

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-64	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	論国・708	論理国語		

<h3>1. 編修の基本方針</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。</li> <li>● 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。</li> <li>● 論理的・批判的・創造的思考力と、他者との関わりのなかで自分の考えを深化させる力を伸ばす。</li> <li>● 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。</li> </ul>
---

<h3>2. 対照表</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図書の構成・内容</th> <th>特に意を用いた点や特色</th> <th>該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"><b>第一章</b></td> </tr> <tr> <td>■弱いつながり</td> <td>・ インターネット上での人と人との「つながり方」を論じた評論により、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)</td> <td>p. 12～p. 17</td> </tr> <tr> <td>逆説</td> <td>・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号) ・ 主体的、能動的に「驚く」ことの重要性を論じた評論により、創造性を培い自主および自律の精神を養えるようにした。(第2号)</td> <td>p. 18～p. 33</td> </tr> <tr> <td>具体と抽象</td> <td>・ 「生きる意味を育むコミュニティー」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号) ・ 事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号)</td> <td>p. 34～p. 53</td> </tr> <tr> <td>言葉と創造</td> <td>・ 西欧近代芸術と日本の俳句を「添削」という観点で比較した評論、異言語・異文化でも共通する概念について述べた評論により、我が国と他国の文化双方を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)</td> <td>p. 54～p. 69</td> </tr> <tr> <td>近代と現代の視点</td> <td>・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号) ・ 「近代」「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</td> <td>p. 70～p. 113</td> </tr> <tr> <td>情報と社会</td> <td>・ 原初的な「不思議」の重要性を論じた評論、現代社会の仕組み・構造を「群衆」「スポーツ」</td> <td>p. 114～p. 137</td> </tr> </tbody> </table>	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	<b>第一章</b>			■弱いつながり	・ インターネット上での人と人との「つながり方」を論じた評論により、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)	p. 12～p. 17	逆説	・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号) ・ 主体的、能動的に「驚く」ことの重要性を論じた評論により、創造性を培い自主および自律の精神を養えるようにした。(第2号)	p. 18～p. 33	具体と抽象	・ 「生きる意味を育むコミュニティー」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号) ・ 事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号)	p. 34～p. 53	言葉と創造	・ 西欧近代芸術と日本の俳句を「添削」という観点で比較した評論、異言語・異文化でも共通する概念について述べた評論により、我が国と他国の文化双方を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)	p. 54～p. 69	近代と現代の視点	・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号) ・ 「近代」「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)	p. 70～p. 113	情報と社会	・ 原初的な「不思議」の重要性を論じた評論、現代社会の仕組み・構造を「群衆」「スポーツ」	p. 114～p. 137
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所																						
<b>第一章</b>																								
■弱いつながり	・ インターネット上での人と人との「つながり方」を論じた評論により、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)	p. 12～p. 17																						
逆説	・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号) ・ 主体的、能動的に「驚く」ことの重要性を論じた評論により、創造性を培い自主および自律の精神を養えるようにした。(第2号)	p. 18～p. 33																						
具体と抽象	・ 「生きる意味を育むコミュニティー」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号) ・ 事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号)	p. 34～p. 53																						
言葉と創造	・ 西欧近代芸術と日本の俳句を「添削」という観点で比較した評論、異言語・異文化でも共通する概念について述べた評論により、我が国と他国の文化双方を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)	p. 54～p. 69																						
近代と現代の視点	・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号) ・ 「近代」「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)	p. 70～p. 113																						
情報と社会	・ 原初的な「不思議」の重要性を論じた評論、現代社会の仕組み・構造を「群衆」「スポーツ」	p. 114～p. 137																						

	などの観点で分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)	
言葉と思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本語の論理性」というテーマの評論により、我が国の伝統と文化、および他国の伝統と文化をともに尊重する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> <li>「偶然」と「必然」を哲学的・神学的に分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> <li>地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> </ul>	p. 138～p. 167
文章の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会の仕組み・構造を「安楽への隷属」という観点で分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul>	P. 168～p. 198
<b>第二章</b>		
文化の認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>自文化を相対化して他文化を理解する重要性を訴える評論、学問と政治の関係を論じた評論により、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> </ul>	p. 200～p. 227
社会の枠組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後日本社会の構造を分析し、近代的な自由の意味を問う評論により、正義と責任などを重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>労働の意味を考察する評論により、自主・自律の精神を養うとともに、職業と生活との関連を重視し勤労を重んずる態度を養うことを意図した。(第2号)</li> </ul>	p. 228～p. 261
情報と知性	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年急速に発達している「人工知能」についての評論、また「メディア」についての評論により、文系・理系の枠にとらわれず、幅広い分野の知識と教養を身に付けることを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 262～p. 291
環境と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人間の意志や選択の自由」についての評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度、自主及び自律の精神を養うことを意図した。(第1号・第2号)</li> <li>地球環境保全について論じた評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> </ul>	p. 292～p. 314
思索の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>「顔」を主題として精神と身体の問題を問う評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> <li>「無常」についての評論により、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することができるように意図した。(第5号)</li> </ul>	p. 315～p. 333
物語と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本歌取り」についての評論により、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することができるように意図した。(第5号)</li> </ul>	p. 334～p. 348
<b>表現編</b>		

報告書を書く	・ 調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)	p. 350～p. 355
小論文を書く	・ 自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。(第2号)	p. 356～p. 359
<b>資料編・見返し</b>		
チェックポイント	・ 主に論理的文章、資料などの文体・表現・構成・背景について深く掘り下げて解説することで、抽象的かつ論理的な思考力を身につけ、自国および他国の文化・社会への理解を深められるようにした。(第1号・第5号)	p. 360～p. 391
ズームアップ	・ 主に論理的文章、資料などで扱われるテーマの背景知識について深く掘り下げて解説することで、抽象的かつ論理的な思考力を身につけ、自国および他国の文化・社会への理解を深められるようにした。(第1号・第5号)	p. 392～p. 399
近現代文学史年表	・ 近代以降の文学史を概観できる年表を掲載することで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした。(第5号)	P. 400～p. 408
評論キーワード	・ 主に論理的文章・資料などで用いられる言葉について、その意味やつながりを知ることで、抽象的かつ論理的な思考力を身につけ、自国および他国の文化・社会への理解を深められるようにした。(第1号・第5号)	p. 409～p. 413
表現キーワード	・ 「思考」「動作」「感情」「物事の様子」に関する複数の語を、各語の意味の違いに注意しながら確認することで、日本語表現の奥深さを実感し、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 414～p. 423
見返し	・ 各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。(第1号)	前見返し 後見返し

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条第2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるような「解説」(コラム)を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。

# 編修趣意書

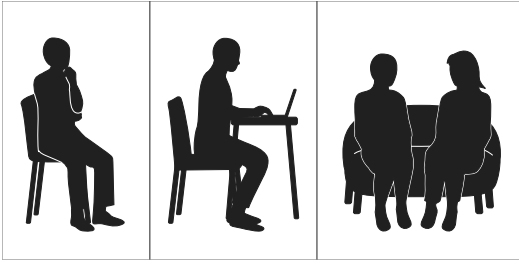
(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
103-64	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	論国・708	論理国語		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### (1)教材

① 現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。



「行為」を表すイラストです。このイラストからわかるように、私たちは「椅子」を見て、単に「特徴」を探し出すのではなく、「それに座って考える」「それに座って仕事をする」「それに座って話をする」といった「物語」を創り出しているのではないのでしょうか。

私たちは、「椅子を認識する」以前に、「身体」を持ち、自分自身の「人生」という「物語」を生きています。この「物語」が、自分自身が今存在している「場」です。例えば、「山道を一人で歩き続け、くたくたになり、一服したいと思っている」という「物語」の中に自分が位置づけられているとします。そこで、一つの「岩」を見たとしたら、その人は、何を意識するでもなく、その岩に腰をかけるでしょう。これが、「山道を歩いてくたくたになっている」という物語の中に、その「岩」が位置づけられた瞬間

### 「具体」から「抽象」へ

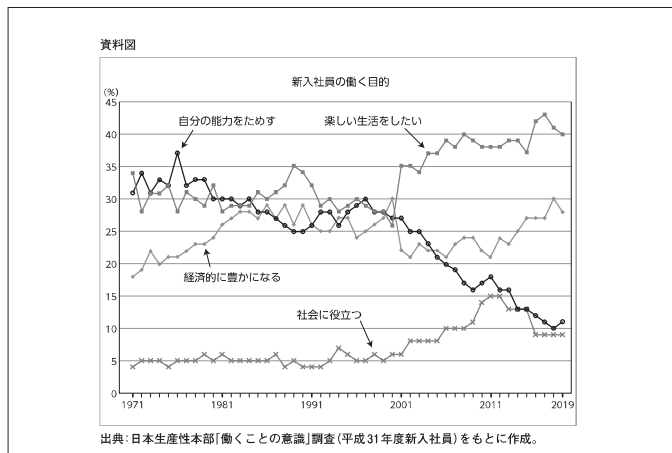
森博嗣

辞書を引いてみよう。「抽象」というのは、「事物または表象のある側面・性質を抽出して把握すること」とある。このとき、大部分の具体的な情報が捨てられるので、「捨象」という行為が伴う。中身の食べられる所だけを抜き出して、外側の皮の部分を捨てる、と考えるとわかりやすいだろう。

どうして、このように情報を捨てるのかというと、そうすることで、何が本質かがわかりやすくなったたり、別の多数のものにも共通する一般的な概念が構築しやすくなったりするからだ。

抽象化するときに失われた情報は、不要だったわけではない。きれいさっぱり忘れてしまえ、というのではなく、いったんそれを棚に上げて考えてみよう、という意味だ。そうしないと、見かけの複雑さにとらわれ、問題の本質が見えにくくなり、結果的に判断を誤るからである。

② 多彩な言語活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力、目的に応じて書く力を身につけられるようにした。



### 言語活動

- 「労働は、一人の人間が社会的な人格としてのアイデンティティを承認されるための、必須条件なのである」(三三-4) という筆者の主張を、わかりやすく説明してみよう。
- 筆者の「労働」についての主張に対して、自分の意見を四五百字以内で書いてみよう。
- 【A】(三三頁)は、次の資料図と資料文【三三頁】の内容をもとに、働く目的について書かれた意見文である。【A】の内容について、次の観点から意見交換をしてみよう。
  - ・資料を正しく読み取れているか。
  - ・文章のまとめ方は論理的か。

③ 比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、教材の理解がより深められるようにした。

### 探究の扉 — 比べ読み —

次の二つの文章を読み、科学的あり方について目的をえもとめてみよう。

## 科学の現場

坂井克之 一九六五昭和四十一年、兵庫県生まれ、医学博士

## 科学と生命

科学と生命は、実はとても似ている。それはどちらも、その存在を現在の姿からさらに発展・展開させていく性質を内包しているという点においてである。その特徴的な性質を生み出す要素は二つあり、一つは過去の蓄積をちゃんと記録する仕組みを持っていること、そしてもう一つはそのから変化し、バリエーションを生み出す能力が内在していることである。この二つの特徴が漸進的な改変を繰り返すことを可能にし、それを長い時間続けることで、生命も科学も大きく発展してきた。

だから、と云ってよいのかよく分からないが、科学の歴史を紐解けば、たかたかの間違った発見がされ、そして消えていった。科学における最高の栄誉とされるノーベル賞を

この科学的仮説の考え方は、日常の場における意見の相違の調整とは全く趣を異にするものです。交渉の場面、国会審議、あるいは法廷などでは対立する二つの意見を取り合わせるという二つの意見が通常な考えです。ここで対立しているのは二つの意見であって、それは主観に基づいた主張が繰り返されようとしても、それは主観に基づいた意見が正しいかを判定することではありません。仕方がないので現時点での妥協点を探り、これを解とするわけでは

科学においては、基本的に妥協点はありません。二つの

受賞した業績で、後に間違っていたことが判明した例もある。

ノール賞を受賞した業績でも、こんなことが起こるのだから、多くの「普通の意見」であれば、誤りであった事例など、実は枚挙にいとまがない。誤り、つまり現実と合わない、現実を説明していない仮説が提出されることは、科学において日常茶飯事であり、二〇一三年の「ネイチャー」誌には、医学生物学論文の七十％以上で結果を再現できなかったという衝撃的なレポートも出ている。

しかし、そういった玉石混交の科学的知見と称されるものの中でも、現実をよく説明する「適応度の高い仮説」は長い時間の中で批判に耐え、その有用性や再現性ゆえに

**中屋敷均** 一九六四昭和三十九年、福岡県生まれ、農学博士

(2) コラム的要素

① 「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読んだり書いたりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。また、教材の読解から発展させて、教材のテーマについて理解も深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

## ズームアップ 「近代」とは何か？

1 「近代」とは「古代」「中世」の後の時代  
「近代」とは一つの時代区分であり、「古代」「中世」の後の時代を指す。近代の期間については諸説あるが、十六世紀の宗教改革の時代から、二十世紀半ば頃までを指す場合が多い。そして、二十世紀半ば以降を、「現代」とすることが多い。

2 「近代」とは「人間が主役」の時代  
近代とは、一言で言うと、「個々の人間が主役の時代」である。このことは、以下の視点からとらえることができる。

(1) 人間と自然との関係  
近代より前の人間は、自分を自然の一部と感じていたと言われている。しかし、近代人は、自分たち人間を自然界の他の動植物から区別された特別な存在だと考える。近代とは、人間が自然から分離して世界の「主役」になった時代である。

(2) 人間と社会との関係  
近代より前の人間は、血縁的・地縁的共同体、あるいは身分制度に縛られていた。自分たちの血縁・家系を常に意識し、自

### チェックポイント [3]

1 語彙とは  
特定の範囲で用いられる単語の総体を語彙という。ある語彙に含まれる単語はそれぞれの意味や概念が互いに関係し合っている。

2 類義語  
互いに意味が似ている語を類語とも呼ぶ。

「体系」と「システム」  
類義語は、意味が似ている場合もあるため、使い方に注意。

○「わがさが流布する」  
×「わがさが普及する」  
単語にはよく使われる組み合わせられている。(六三・一)の言うが「投下する」の類義語はいずれも「資本を」に続けてという語と「投下する」という持つ。

類義語を用いて言い換える際、互いにも注意を払う必要がある。単語の意味だけでなく、文脈うにしよう。

分の生まれ、序列化する強い緑の・地縁的生きる。近代の人間が「主役」に、ヨーロッパ、近代より前のすべての中心は神であり、人間植物もみな、神えられていた。間の生き方は、ト救の教えに上た。しかし、完ら解放されたの生き方を、自分で決める。

(3) デジタルコンテンツ

① 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当時数		
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等				書く	読む	
		(1)	(2)	(3)	A 書くこと		B 読むこと				
					(1)	(2)	(1)	(2)			
	弱いつながり						エ	イ	12		2
	【チェックポイント1】主張の明確化	ウ							17		
逆説	手の変幻						エ	ア	18		3
	【ズームアップ】芸術作品の「多面性」			ア					25		
	胆力について				ウ・エ	イ			26	4	
具体と抽象	「内的成長」社会へ						オ	イ	34		3
	【ズームアップ】資本主義社会と本当の「豊かさ」			ア					41		
	「具体」から「抽象」へ						キ	ア	44		3
	【チェックポイント2】定義と抽象化	ア・イ							52		
言葉と創造	添削の思想						カ	イ	54		2
	国境を越える言葉						キ		60		2
	【探究の扉】ニュースとコミュニケーション						エ	イ	65		1
近代と現代の視点	未来世代への責任						カ	イ	70		3
	【ズームアップ】地球環境問題			ア					76		
	〈近代〉の入口と出口の間	ア・イ	ア・イ・ウ				ウ・オ	イ	80		3
	【チェックポイント3】語彙	ア・イ							90		
	科学・技術の歴史の中での社会						エ	イ	92		3
	【ズームアップ】近代科学の功罪			ア					101		
	【探究の扉】科学の現場						イ		102		1
	【探究の扉】科学と生命						イ	エ	106		1
	【チェックポイント4】文体と構成	エ								112	
情報と社会	白紙	ウ	ア				ウ		114		2
	擬似群衆の時代						ア	ア	120		4
	消費されるスポーツ						ア・イ	イ	128		4
言葉と思考	日本語は非論理的か				オ・カ	イ			138	5	
	【ズームアップ】日本文化を理解する			ア					145		
	偶然とは何か						カ	ア	146		4
	【ズームアップ】「自由からの逃走」?			ア					155		
	野生の「クジラ」と人間の「鯨」						オ	オ	156		4
	【チェックポイント5】情報の視覚化		イ						166		
文章の背景	「安楽」への全体主義	イ	ア		ア・ウ	エ			168	5	
	【チェックポイント6】背景理解と解釈		ア						180		
	【ズームアップ】大衆消費社会			ア					182		
	【探究の扉】現代日本の開化				ア				184	8	
	【探究の扉】漱石が生きた時代				ア	ア			192	5	
文化の認識	「いき」の美学	ア・イ・ウ					ア・エ	ア	200		3
	「文化が違う」とは何を意味するのか?						カ	オ	208		4
	【ズームアップ】文化相対主義			ア					216		
	学問の政治性						イ・エ	ウ	218		4
	【チェックポイント7】主張とその前提			ア					226		
社会の枠組み	「である」と「する」こと						ア・イ	イ	228		4
	【ズームアップ】「近代」とは何か?			ア					248		
	人はなぜ働かなくてはならないのか				イ・エ	ウ			250	5	
情報と知性	人工知能はなぜ椅子に座れないのか	ア	ア				カ	ア	262		4
	【ズームアップ】AIと正しく向き合う			ア					270		
	メディアのテロル						カ	オ	272		4
	【探究の扉】人と共にある図書館の未来は明るい						ウ・キ		280		1
	【探究の扉】図書館と「ものがたり」						ウ・キ	エ	284		1
	【チェックポイント8】多面的な視点			ア・ウ					290		
環境と人間	意志と選択	ウ	ア				カ	ア	292		4
	【チェックポイント9】仮説と検証		ウ						299		
	環境と心の問題						ア・カ	オ	300		4
	エコロジーのミューズを求めて						ア	ア	308		4
思索の深化	顔の所有						ア	ア	315		4
	【ズームアップ】「精神」と「身体」は分離できない			ア					322		
	無常ということ						ア	ア	323		4

物語と表現	【探究の扉】我が国と諸外国の若者の意識に関する調査				イ・エ				334	1		
	【探究の扉】希望を語る				イ・エ	ウ			336	3		
	本歌取り	イ			ア	ア			342	5		
表現編・資料編	報告書を書く				イ・オ・カ	イ			350	6		
	小論文を書く				ウ・オ・カ	ウ			356	3		
	巻末チェックポイント・ズームアップ	エ	ア	ア					360			
	評論キーワード	ア・イ							409			
	表現キーワード	ア・イ							414			
									A 書くこと		50	
									B 読むこと			90
									合計			140